



常務執行役員

中山 千裕

Chihiro Nakayama

変化を創り出す技術

2016年4月に始まった山洋電気グループの第8次中期経営計画は、5年計画の3年目を迎えています。

第8次中期経営計画の重要方針のひとつに「環境の変化をチャンスに変える企業体質をつくる」があります。

企業を取り巻く環境は常に変化しています。私たち山洋電気グループは、この変化に遅れることなく追従し、さらに変化をチャンスに変えることができる強い企業体質をめざしています。

この重要方針を実現させるために、行動指針のひとつである「不得意であったことに挑戦し、得意なことに変化させる」のもと、「変化を得意にする」施策を推進してきました。山洋電気グループの全部門、全社員のさまざまなアイデアや施策により、成果が出始めています。

ここで、本号の特集である「変化を創り出す技術」に目を向けてみます。前述の重要方針と同様に「変化」がキーワードになっていますが、これは何を意味しているのでしょうか？

第8次中期経営計画には、「新たな夢を実現する製品を開発する」という重要方針もあります。これをもう少し具体的に表現すると、「お客さまの新しい価値をつくり、お客さまとともに夢を実現する新製品をつくる」となります。

この方針のもと、山洋電気グループの設計開発部門は、「人と地球環境に優しい性能・機能」、「安心・安全で使いやすい性能・機能」、「ロボット化、自動化に最適な性能・機能」を有する製品開発を重点テーマとしています。

これらの性能・機能を有した製品がお客さまや環境に変化を生み出し、そこに「新しい価値」や「新たな夢」が生まれ、方針が実現できます。私たちの開発した製品がお客さまや環境にポジティブな変化を創り出す、これが「変化を創り出す技術」と言えるでしょう。

この「変化を創り出す技術」により、これまでにない、特長的な製品を開発し、市場に投入しました。

クーリングシステム事業では、長寿命ファン、防水ファン、防油ファン、耐温ファンなどの耐環境に対して特長のあるファンを次々と製品化しています。過酷な環境下で使用できるファンは「新しい価値」を生み出しています。

パワーシステム事業では、鉛蓄電池の代替としてリチウムイオン電池を採用した無停電電源装置を製品化しました。極寒・極暑のような幅広い環境下での使用が可能であることと、10年間のメンテナンスフリーを実現したことで、「安心・安全で使いやすい」製品になりました。

サーボシステム事業では、データの転送量を大幅に拡大したサーボアンプを製品化しました。装置のIoT化に大きく寄与することができ、「ロボット化、自動化」に最適な製品が完成しました。

本号では、「変化を創り出す技術」の一部を紹介しています。

私たちは、これらの技術開発をさらに加速させ、「新たな夢を実現する製品」を絶え間なく開発し、市場に投入することで社会に貢献してまいります。